

農業技術センター普及指導部作物関係情報 (その1)

タイトル：水稻の初期生育状況（6月24日現在）について

発信日：平成23年 6月27日

内 容

- ・田植え後、気温は平年に比べてやや低く、降水量についても平年より少ない傾向である。また、日照は梅雨入りが平年より12日早い（5月27日）ことから少なくなっている。田植え後の生育は、5月植えは平年並み～やや遅い傾向で推移しており、6月上旬植えについては、生育がやや遅れている。
- ・草丈および葉色は平年並み、茎数はやや多い傾向にある。
- ・現状の害虫および病気の発生は、平年に比べて少ない傾向である。

今後の作業

今後の水稻の作業については、次の点に注意する。

- ①健全な生育を促進するため、活着後は間断灌水を徹底する。ただし、気温や水温が低い日が続く場合は、水温を確保する水管理（掛け流しをさける等）を行うなど、気象の変化に合わせた栽培管理に努める。
*横浜气象台による6月25日の3ヶ月予報では、7月は、気温は平年並～やや高く、降雨量は平年並み～やや少ない予報、8月は気温が平年並みかやや高く、降水量は平年並みの予報が出ている。
 - ②一部湿田、深植え、除草剤の薬害等による水稻の初期生育が遅れている場合があるが、生育促進を目的とした追肥は行わない。
*こうした場合の生育の遅れは、根の活性が弱く肥料を吸収できないことによるためであり、元肥の肥料分は残っている。また、初期の追肥は過剰生育や倒伏の原因になりやすい。
 - ③害虫の発生は平年に比べてやや少ない傾向で、セジロウンカ、ヒメトビウンカの発生についても少ないが今後の発生に注意する。イネツトムシ、ニカメイチュウの発生も常発地では十分注意する。
*箱施薬を行っている場合は、7月中旬頃まで本田の薬剤散布は必要ない。
病虫害防除部のテレホンサービス（0463 - 58 - 6612）やホームページを活用する。
- ①気温が低温で推移しているため、雑草が初期に一斉に発芽するのではなく、後からの発芽が多くなる可能性がある。雑草が多く残っている場合は、中～後期に使用する除草剤を処理する。
*中期剤で湛水処理の場合、7日以上止め水にする。
*バサグラン粒剤・液剤を使用する場合は、水を落として（落水～ごく浅く湛水）雑草の葉に除草剤が直接かかるように処理し、処理後3日間落水状態を保った後、入水する。

(参考) 現時点の稲の生育や天候では、今後の予測はできないが、平年値を次に示す。

* 農業技術センター（平塚市）での平年値（概ねの目安）

作期	品種・系統名	平年出穂期	平年中干し時期	穂肥時期
5 月 下 旬 植	キヌヒカリ	8月 6日	7月7～12日	7月17日頃
	さとじまん	8月14日	7月15～20日	7月30日頃
6 月 上 旬 植	キヌヒカリ	8月11日	7月12～17日	7月22日頃
	さとじまん	8月19日	7月20～25日	8月 4日頃
6 月 中 旬 植	キヌヒカリ	8月16日	7月17～22日	7月27日頃
	さとじまん	8月23日	7月24～29日	8月 9日頃

* 中干しは、好天の場合は3～5日程度と短く、降雨が多い場合は5～7日程度と長くする。大きな切れ目ができる程度に強く中干しを行うと、稲の根を切断し、後半の生育を抑制するので強い中干しはしない。

参考情報・文献

平成23年夏作気象表並びに
水稻生育診断調査結果

連絡先

農業技術センター普及指導部 作物加工課
平塚市上吉沢1617
電話番号：0463 - 58 - 0333（内）381～384
FAX番号：0463 - 58 - 4254
E-メール：noken.fukyu@pref.kanagawa.jp